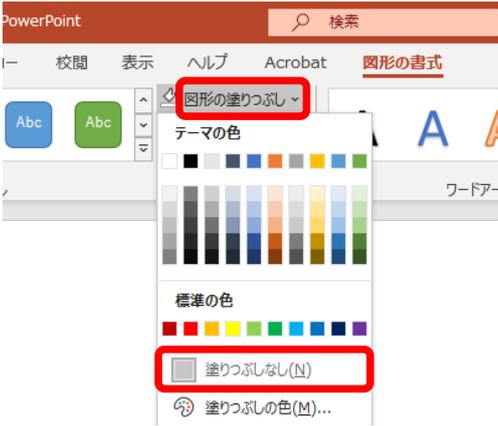
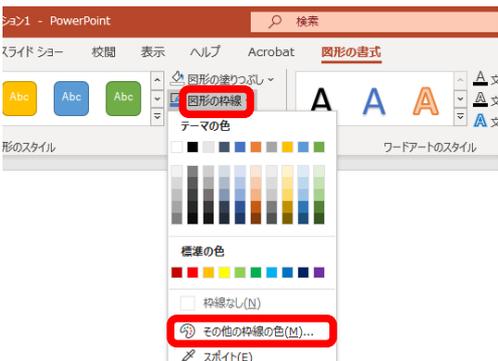
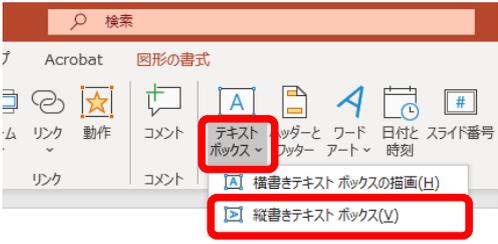
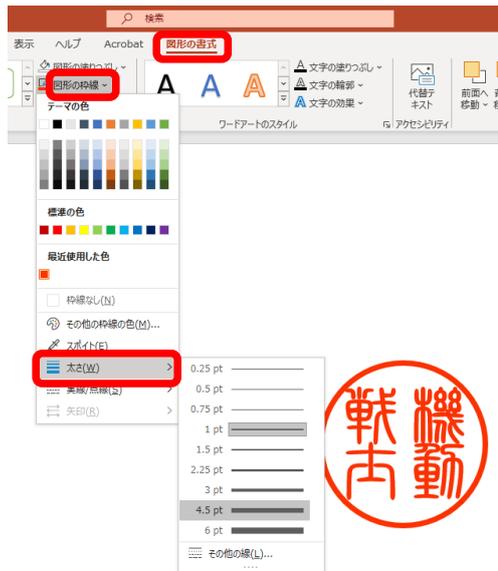


このマニュアルは PowerPoint Office 365 バージョン 2002 で書かれています

<p>1</p>		<p>「レイアウト」→「白紙」。</p>
<p>2</p>		<p>「挿入」→「図形」→「楕円」。</p>
<p>3</p>		<p>「Shift」キーを押しながら、正円を描きます。</p> <p>このとき、サイズを5cm ぐらいにしましょう。</p> <p>後述の手順 14 で使うアート効果は画像サイズによってかすれ具合が違います。5cm ぐらいだと印鑑としてはいいかすれ具合なためです。</p>

<p>4</p>		<p>「図形の塗りつぶし」 → 「塗りつぶしなし」。</p>
<p>5</p>		<p>「図形の枠線」 → 「その他の枠線の色」。</p>
<p>6</p>		<p>赤：250          緑：50          青：0          にして、「OK」。</p> <p>ただの赤でもいいのですが、ちょっと朱色っぽく。          まあ、お好みで。</p>
<p>7</p>		<p>「挿入」 → 「テキスト ボックス」 → 「縦書きテキスト ボックス」。</p> <p>テキストボックスを描きます。</p>
<p>8</p>		<p>好きな文字を入力し、フォントの種類、サイズ等を調整します。</p> <p>色は、先ほど作った朱色。</p> <p>例として使用しているのは、  「<a href="#">白舟篆書教漢</a>」というフリーフォントです。</p>

9



円を選択し、「図形の書式」。  
「図形の枠線」→「太さ」。

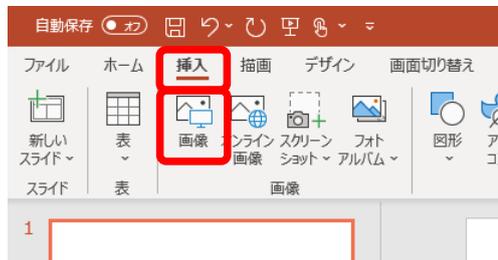
フォントの太さとのバランスを見て、線の太さを選びます。

10



「Ctrl」＋「A」キーで全て選択。  
フォントではなく円の上で右クリックして、「図として保存」。

11



「挿入」→「画像」で、保存した印鑑の画像を挿入。

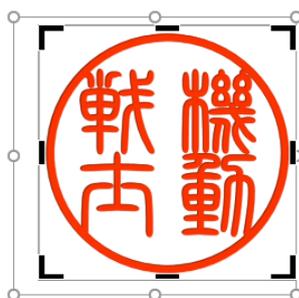
12

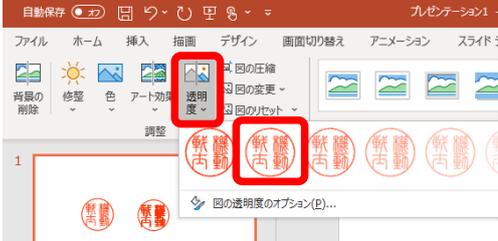


保存した画像は、テキストボックスを画像にした関係で余白が大きい場合があります。

「トリミング」で、余白をカット。

余白が少ない場合は、必要ありません。



<p>13</p>		<p>トリミングした画像を選択し、「図の圧縮」で「OK」。</p> <p>「図の圧縮」でトリミングした部分を削除するのは、アート効果がかかる画像のサイズを余白を抜いて5cmくらいにするためです。</p>
<p>14</p>		<p>「アート効果」→「線画」。</p>
<p>15</p>		<p>お好みですが、「透明度」を「15%」。</p>
<p>16</p>		<p>完成です。</p> <p>アート効果を使うことで、図形とテキストボックスで作ったものより、印鑑っぽくなりました。</p>
<p>補足</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>図形の結合</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図形とテキスト</p> </div> </div> 	<p>朱色の図形に白いテキストで、こんな印鑑もできますが、図形とテキストを図として保存して、アート効果をかけると字がかなりかすれます。</p> <p>そこで、図形とテキストを「図形の結合」で図形にしてから図として保存すると文字がかすれません。</p> <p>図形とテキストを選択し、「図形の結合」→「単純型抜き」で、図形にし、図形の上で右クリックで「図として保存」します。</p>